

目となり 手となり 足となり

～戦傷病者を支えた
義眼・義手・義足～



SHOKEI-KAN
しょうけい館
戦傷病者史料館
Historical Materials Hall for The Wounded and Sick Retired Soldiers etc.

入館無料

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13 ツカキスクエア 九段下

電話 03-3234-7821 FAX 03-3234-7826

HP <http://www.shokeikan.go.jp>

平成30(2018)年

3.6 火 ▶ 5.6 日

会場 しょうけい館 1 階

開館時間 10:00～17:30 (入館は17:00まで)

休館日 毎週月曜日・5/1 (ただし4/30は開館)

目となり 手となり 足となり

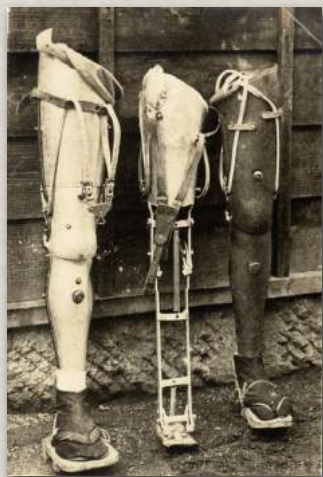
戦傷病者を支えた義眼・義手・義足

戦傷病者の中には、義眼や義手、義足などの補装具と共に生きてきた人たちがいます。彼らは戦闘や訓練での負傷や病気によって身体の一部を失い、その代わりに補装具を着けて生活することになりました。戦後、身体障害者という立場で多くの労苦を体験しましたが、自らの努力と、妻や周りの人たちの支えによって乗り越えてきました。

ひとくちに補装具を着けて生活してきた戦傷病者の労苦といっても、様々な負傷や病気が原因となっているため、一人ひとり異なる労苦があります。補装具を付けて苦しい訓練に耐え日常生活を送ることができるようになっても、補装具では自分の手足と同じ動きをすることは難しく、就職を断られたり、仕事をやめさせられたりすることもありました。さらに、現在ほど障害者への理解がなかったため、様々な差別を受けることもありました。

今回の企画展では、目や腕、脚などの身体の一部を失い、補装具を使って生きてきた戦傷病者たちの労苦とそれを乗り越えた努力を、補装具の中でも代表的な義眼、義手、義足の実物資料を中心に、証言映像と共に紹介します。

*補装具…失われた身体の一部や機能を補うための道具。
義手、義足などの義肢や杖、車いす、コルセットなど、さまざまな形、機能のものがあります。



講演会

「日本の義肢の戦後から今日まで」

講演者：義肢装具士 田澤泰弘氏

(元日本義肢協会理事長、株式会社田沢製作所代表取締役)

日時	3月24日(土) 13:30～14:30
場所	しょうけい館1階 証言映像シアター
その他	参加無料

※席に限りがありますので(約30名)、
参加ご希望の方は当館までご連絡ください。

証言映像上映

補装具と共に生きてきた戦傷病者の証言映像を上映します。

日時	会期中毎日 10:00～17:00
場所	しょうけい館1階 証言映像シアター
その他	鑑賞自由・無料

フロアレクチャー

学芸員が企画展の展示解説をします。

日時	4月7日(土)・21日(土)、5月5日(土) 14:00～30分程度
場所	しょうけい館1階
その他	当日参加自由・無料

しょうけい館

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年3月に開館しました。しょうけい館という館名は、戦傷病者とそのご家族の労苦を知り、語り継ぐという趣旨から、受け継ぎ、語り継ぐという意味の「承継」という言葉からとっています。

地下鉄

東西線、半蔵門線、都営新宿線
「九段下」駅6番出口から徒歩1分

都営バス

高71系統(九段下～高田馬場駅)
「九段下」停留所から徒歩1分

※駐車場はありません。公共交通機関
をご利用ください。

※車椅子で来館される場合は
館のA入口をご利用ください。



住所 〒102-0074 東京都千代田区
九段南1-5-13 ツカシクスエア 九段下
TEL 03(3234)7821 FAX 03(3234)7826
URL <http://www.shokeikan.go.jp>

